

平戸市 議会だより



子どもたちにかげがえのない体験を

体験民泊を終え帰路につく修学旅行生を見送る
生月島体験観光協議会の皆さん

Vol.94

令和8年(2026年)8月1日発行

6月定例会

もくじ —INDEX—

- 2～3 今議会ここに注目！
- 4 審議された案件と結果／全国市議会議長会表彰
- 5 行政視察報告（議会運営委員会・議会広報特別委員会）
- 6～11 一般質問
- 12 平戸のチカラ



平戸市議会ホームページ



バックナンバー

平戸市議会だより ～とかいせん～ Vol.94 2026.8.1

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170

FAX22-3427 E-mail: gikai@city.hirado.lg.jp

このコーナーでは、平戸市で活躍する人や団体にスポットをあて、ご紹介します。



大島村体験型観光協議会・生月島体験観光協議会 大島で忘れられない体験を 提供し続け二十一年目に



1 漁業体験後の魚の選別(大島)
2 紙テープでのフェリー見送り
3 生月島体験観光協議会の皆さん

「感動が人を呼ぶ」―この言葉を胸に、体験型民泊で平戸市の豊かな自然や農・漁村の魅力を伝えてきた団体がある。そのうちの1つ、20年もの間活動を続ける大島村体験観光協議会の富元昭嘉氏に話を伺った。

漁火館に宿泊していた島外の人と話すうちに「定置網漁体験や獲れたての魚を味わってもらいたい」との思いが芽生えていた。その矢先、志を同じくする仲間と出会い、同団体を立ち上げ、平成18年に初めて岡山



大島村体験型観光協議会
とみもと あきよし
会長 富元 昭嘉 さん

県から中学生の農林漁業体験民泊の受け入れを行った。当初は「知らない人を自宅に泊める」ことに戸惑う声もあったが、さまざまな体験をとおして一緒に過ごした子どもたちと別れを惜しむうち「次はいつ来ると」という期待の声が絶えなくなった。

また、ある年の受け入れの際には、アジのさばき方を教えた中学生から手紙が届き「スーパでアジを買って、さばいて親に食べてもらいました」と書いてあり、思わず涙がこぼれたという。

「かつては市内で5団体が民泊を受け入れ、この活動をきっかけに都会から移住してきた人もいたが、今では大島・生月の2団体となった。それでも今後は、企業研修やインバウンドの受け入れなどにも挑戦しつつ、息子たちの世代と頑張っていきたい」と今後の展望を語った。

広報特別委員会

委員長	委員	委員長	委員	委員	委員	委員	委員
池田 稔巳	岡 康則	井元 宏三	岡村 文雄	竹山 俊郎	針尾 直美	山内信太郎	

編集後記
6月定例会でも、市民生活に関わるさまざまな課題について議論された。人口減少、高齢化、財政など、平戸市を取り巻く環境は厳しさを増しているが、一方で地域の未来を見据え、地道な活動を続ける人々の姿もある。
今回、交流人口拡大のために活動する2団体取材した。コロナ禍など困難な状況に直面し、先の見えない状況に心が折れそうになったこともあったという。それでも活動を継続してきたことが今日の成果につながっている。取材を通して、継続の大切さを改めて感じるとともに「子どもたちの笑顔が一番うれしい」と語る担い手の皆さんの笑顔こそが「平戸のチカラ」であると実感した。（山内信太郎）

平戸市議会 検索 市議会の詳しい情報は、平戸市議会のホームページをご覧ください。

